

令和6年（2024年）度行政評価シート【個表】

令和 6 年 8 月 2 日

評価対象事業		評価者	生涯学習課長 飯田 拓也	
教育-46	鎌倉国宝館管理運営事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	生涯学習課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	文化財課
総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針	文化財の保護

1 事業の目的

対象	市民等
意図	鎌倉ゆかりの文化財を収集、受託、保管し安全に後世に伝えるとともに、調査・研究、展示をとおして市民等の利用に供するため。
効果	現在、国宝5件43点、重文75件872点をはじめ、館蔵品・寄託品併せて1,000件、6,000点を超える収蔵品を保管し、文化財の保全と活用を図る。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

年間6回の特別展を企画・開催するとともに、列品解説、特別解説を行った。また、学芸員資格の取得を目指す大学生対象の博物館実習を実施したほか、高校生のインターンシップの受け入れを行った。必要性が高い修繕を優先的に実施した。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度		令和6年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	公益財団法人氏家浮世絵コレクション助成事業	氏家浮世絵コレクション補助金(519千円)の交付	浮世絵展来館者数(人)	7,336人 / 5,000人	5,000人	5,000人	146.7%
				519 / 519	519	519	
02	鎌倉国宝館協議会運営事務	鎌倉国宝館協議会の開催	協議会開催回数(回)	1 / 2	2	2	50.0%
				42 / 124	124	124	
03	鎌倉国宝館展示・教育等事業	年6回の特別展の開催や、情報収集及び調査研究を実施	年間来館者数(人)	39,367人 / 50,000人	50,000人	50,000人	78.7%
				13,218 / 16,884	16,884	17,244	
04	鎌倉国宝館維持管理事業	収蔵品整理アシスタントによる収蔵庫整理等の保存環境の整備、博物館機能を維持するため、各種設備の点検・保守業務を実施	開館日数	223日 / 250日	250日	250日	89.2%
				48,148 / 59,852	59,852	68,135	
05	鎌倉国宝館維持修繕事業	博物館施設の維持のため、必要に応じた設備修繕を実施	(-)	(-) / (-)	(-)	(-)	
				14,057 / 58,588	58,588	30,017	
			財源内訳				
			国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	28,823 / 83,191	83,191	53,231	
			一般財源	47,161 / 52,776	52,776	62,808	
			事業費の合計(千円)	75,984 / 135,967	135,967	116,039	
			人件費(千円)		30,067	34,533	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	4.0	4.0	3.4	3.2	3.8	
会計年度任用職員	3.2	4.0	3.0	4.0	3.0	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、 目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、 構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	公益財団法人氏家浮世絵コレクション助成事業	令和5年度浮世絵展の来館者数7,336人については、開館日数32日(4月1日～5月7日)に対してであり、1日平均は約229人であった。1日の来館者数としては、他の特別展の中で一番多かった。 助成を行う効果として、当該コレクションを出品する展覧会への来館者数及び観覧料収入の増加が期待されるほか、財団が作品の修理事業を進めることで、鎌倉の文化財保護の促進に繋げることが可能となる。	昭和49年10月1日に財団が設立され、昭和55年6月6日付けで市と財団とで締結した覚書に基づく事業であり、歴史的遺産と共生するまちづくりに貢献する例年開催の浮世絵展を支える事業となっている。	多様な観覧スタイルやニーズに対応するため、今後の事業展開の手法についても検討していく必要がある。
02	鎌倉国宝館協議会運営事務	当該協議会は館長の諮問機関として、博物館活動への有益な指導・助言等を得る機会を提供しているため、定期的な開催が望まれる。	当該協議会からの指導・助言は、歴史的遺産と共生するまちづくりに貢献する当館の博物館活動を展開するために、必要な諮問機関である。	委員6名のうち女性委員は3名であり、今後も改選の際には男女の割合について検討する必要がある。
03	鎌倉国宝館展示・教育等事業	指標分析の推移については、令和3年度までのコロナ禍の状況、令和4年度は、大河ドラマの影響もあり、大幅に来館者が増加してきた。令和5年度は6回の特別展等を開催した。令和4年度からは、来館者数は減少したが、有料来館者は、前年比約106%となった。 博物館施設における展覧会他の教育普及活動は、いかに多くの市民等に観覧してもらえるかにかかっているため、今後も指標として有効と考える。	博物館活動の中心となる事業であり、歴史的遺産と共生するまちづくりの代表となる、特に大切な事業である。	博物館は、来館者数を増加させるためには、定期的に適度な展示替えが必要であり、平常展示や特別展示のほかに展示室のリニューアルなどを画策し、より優れた展示企画を行うとともに、多彩な体験学習メニューの開発・実施等が必須であり、そのコーディネーターとしての学芸員の増員・充実を図る必要がある。 また、学芸員が上記の業務に専念できるよう職場環境を整える必要がある。
04	鎌倉国宝館維持管理事業	指標分析の推移については、令和4年度以降は、コロナ禍を抜け、臨時休館せずに展示活動を継続できた。開館して収蔵資料等を市民の観覧に供することが博物館の基本的な活動であることから、開館日数は指標として有効と考える。	収蔵資料の保存管理は博物館の基礎的機能であり、保存環境を維持していくことは教育普及他の博物館活動の打出しを支える重要な事業である。	今後も計画的に収蔵品整理を進めていく必要があるが、昭和58年竣工の新館の収蔵庫や、昭和3年開館時からの本館展示場について、近年では施設の老朽化に伴い、温湿度を一定に保つのに腐心している。また、施設・設備全般の老朽化の進行に伴い、毎年、施設修繕が必要不可欠になっており、抜本的に大規模な改修・更新が必要となる時期が迫っている。
05	鎌倉国宝館維持修繕事業	設備等の維持修繕が主な事業となるが、これらは目標値の設定にはなじまない。	施設・設備の維持管理は、博物館の重要な機能である資料の保存管理、教育普及活動を展開するうえで、とても必要な業務である。	当館は昭和3年に開館の築90年を経過している施設で(新館は昭和58年竣工)、近年では、毎年、施設修繕が必要であり、大規模な改修・更新を行うべき時期となってきている。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み
	関連・類似する事業の統合はできないか	2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	2 民間によるサービスで代替できる事業はあるが、民間による提供が不足している
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-2 適正な受益者負担を導入している
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済 △-1 今後、市民等との協働による事業を検討すべき事業がある
		協働実施済の場合のパートナー 社寺等

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善・変更 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
鎌倉ゆかりの文化財を適切かつ確実に将来に継承し、市民等の文化的ニーズに積極的に応えていくことは、歴史文化都市鎌倉の使命であり、中核施設として公開承認施設である鎌倉国宝館は必要不可欠である。 当館の各事務事業は、博物館活動を展開する上で必須の事業であり、特に教育普及活動の積極的展開とそれを支える調査研究活動の充実を図る必要があるとともに、施設の老朽化対策は喫緊の課題として取り組む必要がある。	

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	入館者数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
博物館活動の成果は、展覧会他の教育普及活動に、いかに多くの市民等が訪れたかにかかっているため。	目標値	30,000	30,000	80,000	50,000	50,000	70,000	
	実績値	16,010	24,516	94,970	39,367			
	達成率	53.4%	81.7%	118.7%	78.7%			

指標(単位)	開館日数						単位	日
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
収蔵資料等を公開し、市民等の文化活動に資するためには、開館して展覧会等を開催することが基本となるため。	目標値	250	250	250	250	250	250	
	実績値	197	264	225	223.0			
	達成率	78.8%	105.6%	90.0%	89.2%			

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	神奈川県内の公立博物館における1日当たりのオープンスペースの規模に応じた入館者数					
団体名	鎌倉国宝館	横浜歴史博物館	相模原市立博物館	横須賀市自然人文博物館	平塚市立博物館	
令和2年度	0.14人	0.08人	0.08人	0.22人	0.05人	
令和3年度	0.16人	0.08人	0.11人	0.26人	0.08人	
令和4年度	0.71人	0.12人	0.13人	0.09人	0.09人	
令和5年度	0.30人	0.11人	0.14人	0.10人	0.09人	

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	博物館施設における年間入館者数はベンチマークとなりうるが、規模や開館日数などの違いがあり単純な比較は困難であるため、展示室他のオープンスペース面積や開館日数を考慮する必要がある。 そこで、有効な数値を次の計算式で求めることとする。 有効数値＝年間入館者数÷年間開館日数÷オープンスペース延べ床面積
----------------------	--